



山田緑地

「30世紀の森づくり」をテーマとした緑地公園。弾薬庫として使用されていた敷地内を利用区域と保全・保護区域にゾーン分け、自然とのふれあいの場と自然保護を両立させる場として作られた。指定管理者制度により北九州東部緑地管理(株)と里山を考える会の共同事業体が運営を担当。年間来場者数67,854人。

■東田エコクラブ
〒8050071北九州市八幡東区東田2-5-7
TEL:093-662-3100 FAX:093-662-3800
Staff blog: <http://nposatoyama.blogspot.jp>

■山田緑地
〒8030865北九州市小倉北区山田町
TEL:093-582-4870 FAX:093-582-4970
Web: <http://yamada-park.com>
Staff blog: <http://yamada-park.blogspot.jp>

■北九州市環境ミュージアム
〒8050071北九州市八幡東区東田2-2-6
TEL:093-663-6751 FAX:093-663-6753
Web: <http://eco-museum.com>
Staff blog: <http://ecomuseum123.blogspot.jp>

■北九州市エコライフプラザ
〒8020001北九州市小倉北区浅野3-8-1 AIMビル2階
TEL:093-512-3190 FAX:093-512-3441
Web: <http://www.ecolifeplaza.com>
Staff blog: <http://eco-life-plaza.blogspot.jp>



北九州市環境ミュージアム

北九州市が体験した公害の歴史から現在の環境未来都市へと至る「環境と市民の関係」を切り口に、環境との共生の大切さを伝える学習センター。指定管理制度によりタカミヤ・マリバー環境保護財団と里山を考える会との共同事業体が運営を担当。年間来場者数128,464人。



東田エコクラブ

里山を考える会本部を含め8団体が入居する民設公民館。市民、企業、行政と街づくりを担う人々の“溜まり場”。持続可能な社会づくりを目指す企画の立案、運営を行う。地域に開放した会議室とコミュニティガーデン、ピザ窯を併設。



北九州市エコライフプラザ

環境配慮型商品やフェアトレード商品の展示・販売の他、「モノを大切に作るココロ」を育むワークショップ、環境にやさしい消費者、グリーンコンシューマーのための情報提供など、「環境」をテーマに様々な活動を展開する施設。里山を考える会が北九州市より運営委託を受けている。

特定非営利活動法人 里山を考える会

里山を考える会は、2002年設立された特定非営利活動法人。「里山的暮らしのデザイン」をテーマに社会システムの発展、環境教育/人材育成およびコミュニティに関する事業を行い、持続可能な社会に貢献することを目指す団体。

- 会長 : 関宣昭
- 所在地 : 〒8050071北九州市八幡東区東田2-5-7
- 連絡先 : TEL:093-662-3100 FAX:093-662-3800
- Web : www.satoyama.cn
- スタッフ : 26名
- 平均年齢 : 37歳
- 出身 : 北九州市11名 福岡県3名 九州2名 九州外10名
- 配置 : 07名 東田エコクラブ
04名 山田緑地
12名 北九州市環境ミュージアム
03名 北九州市エコライフプラザ



2012



■新日鉄住金エンジニアリング株式会社研修 75名

4/20、新入社員向けに東田地区のガイドを行い、北九州市の歴史と環境に関する取組を紹介した。また、未来のまちづくりを想像し、プレゼンテーションを行うワークショップを実施した。7/12、社会貢献活動を行うチームの研修を受諾。NPOに関する講義と未来を考えるワークショップを実施した。

■「エンジ村」委託事業 135名

新日鉄住金エンジニアリング株式会社は、同社の北九州東田京敷地内にハーブガーデン「エンジ村」を建設、これを地域住民との交流の場として利用することとした。この「エンジ村」を活用したイベントの企画・運営や管理を担当した。イベントを通して地域住民と当社社員の交流の場を創出し、より良いコミュニティづくりに向けた活動を展開していく。WBSの取材を受け、2013/1/8に放映された。

■環境体験科

北九州市が実施する小学校を対象としたエコツアー。山田緑地と北九州市環境ミュージアムが受入に参加、2施設で7627名の小学生が来場した。



□ Share!東田まつり2012 5/25 - 5/27

協力530名 来場者5934名
「Share! 東田まつり 2012」を開催した。祭をまちづくりツールと考え、東田のコミュニティデザインとして実施した。里山を考える会は、この祭を主催する東田まつりを創る会の運営事務局および世話人を担当した。Share!とは日本語では共有という意味で、私たちが古くから培ってきた「おもちゃより・わかちあい・おすそわけ」の精神を表現する。東田に「住む人、働く人、訪れる人」が、Share!を合い言葉に自分たちの出来る事を持ち寄りつくりあげる「まつり」とした。それぞれの「おもちゃより」は、参加者の手によってShare! MAPに描かれる。参加者のつながりや広がりが見えるMAPを、まつりの核として出来るまでのプロセスが見えるイベントとした。2012年度はマンパワー、テントやお宝などのモノ、パフォーマンスやワークショップなどのコトが106集まり、530名の参加者がまつりを作り上げた。

□第14回手づくり市場in北九州~Let's ハンドメイド

11/10・11/11 16,550名
「手作りで心豊かな暮らしを」をテーマに毎年開催。全国から、個人作家や企業、団体が集結し、作品の販売やワークショップを通して手づくりの魅力に触れてもらうイベント。今年は、西日本総合展示場本館を会場に、前回要望の多かったワークショップを大幅に増やして開催した。



■森の子育て支援事業

「森の育ち場」毎週月木 1404名
森のプログラム「みちくさ」に加え、3歳～6歳の子どもを対象とした「いっぴいっぴ」を山田緑地に開始した。子ども一人一人の主体性を尊重し、やりたいことを自然の中でのびのびと行う時間を提供することで、自ら考え、選択しながら主体的に行動する力を育むことを目的とした。この年代は、子ども同士の関係性が形成される時期であるため、物の取り合いなどが起こるが、自分と相手の気持ちを感じる良い機会を提供できた。また、子どもが目キラキラさせながら遊ぶ姿に、保護者にもものびのびと育ち合う場の重要性を感じてもらえた。2013年度からは週4日、一年を通した取り組みとしてリニューアルする。

■JICA青年海外協力隊研修 年4回実施

独立行政法人国際協力機構の依頼により、国際ボランティアとして海外で環境教育活動を行う青年海外協力隊員に対し、5日間の派遣前研修を行った。コンポスト化技術、環境政策、環境ビジネス、地域づくり、市民参加、環境教育プログラム、プレゼンテーションの要素を盛り込んだ研修を企画、実施した。



□「Share!」コミュニティペーパー発行

「しあわせをどんどんシェアするまちづくり」をテーマに東田地区の情報を集めた日英併記のコミュニティペーパーを創刊、第2号までの発行を行った。創刊号は、北九州スマートコミュニティ創造事業、Share!東田まつり2012、北九州市環境ミュージアムリニューアル、里山を変えるデザイン展などを特集。第2号では、エネルギーを中心とした社会実証実験、環境教育プログラム「北九州 地球の道」、ココスマツアーを特集、また、東田の街の成り立ちに関する記事を掲載した。第3号は、2013年6月発行。

■「森のインタープリター」出版

山田緑地において実施して来た自然系インタープリテーション研修の成果をまとめた冊子「森のインタープリター」を発行した。この冊子は、インタープリテーションの基礎を解説、23の自然体験アクティビティを写真やイラストを交えて説明したもの。

■「Green Map」出版

Green Mapは、世界共通のグリーンマップ・アイコンを使った地図づくりを通して、環境に良いところ、悪いところ、知恵が詰まったところ、子どもが遊べるところなど地域や街をあらためて見直し、新しい発見の機会を提供するプログラム。この手法を解説し、北九州市で行われた事例として「自然館」「街なか編」「エネルギー編」「企業CSR」をまとめた冊子を発行した。



■「北九州地球の道」プログラム導入 10月

作家・倉本聰氏主宰のNPO法人C.C.C富良野自然塾開発の環境教育プログラムの北九州市環境ミュージアムへの導入を提案、建設に協力し、10月より運営を開始した。このプログラムは、地球の歴史、46億年を460mという距離に置き換えた道を歩き、地球誕生から現代までのストーリーを体験するもの。このプログラム導入に向け、北海道の富良野自然塾に職員を派遣、準備を行った。

■JICA環境教育研修 9/23 11/9 30名

独立行政法人国際協力機構が行う海外から参加者を対象とした研修のカリキュラムの一つとして環境教育プログラムを実施した。森先案内人養成講座で培ったノウハウを活かし、プロジェクトワイルドや山田緑地オリジナルプログラムに参加してもらうことで、体験学習によるESDを紹介した。参加者から「楽しい」、「新しい発見があった」といった声をいただいた。

■北九州水素タウンプロジェクト・ガイド

■環境未来都市PR隊研修

■北九州ESD協議会

■サステナブルデザイン国際会議開催準備開始

□もりフォーラム 9/15 1316名

認知症の皆様をお招きし、自然の中へゆたったり身を置いて楽しんでもらうためのイベントを山田緑地に開催した。7回目となった今回の「もりフォーラム」では、「森の絵本カーニバル」を併催。認知症の方やそのご家族、学生を含むボランティア、絵本を読みに来た子どもたちなど様々な世代が一緒に時間を共有し、交流する場を作ることができた。また、イベント中に北九州ESDネットワーク会議を行い、ESD活動の具体的な例を提示した。

■北九州市環境政策教材化 9月-2月

公益財団法人地球環境政策研究機関 (IGES) の依頼により、環境教育分野における北九州市の環境政策や環境教育関連施設の取り組みについて聞き取り調査を行い、資料編纂を行った。全体の資料はIGESが、技術・ビジネス・政策などの分野と共に、日本語版と英語版を完成させる予定。

□「明日、悲別で」公演 2/27 700名

作家・倉本聰氏が主宰したシナリオライターと俳優の養成機関「富良野塾」卒業生を中心として活動する富良野GROUPによる演劇公演を北九州芸術劇場にて開催した。里山を考える会は、北九州実行委員会世話人を担当。北九州市の歴史とも関係の深い「炭坑」を舞台とした物語。作・演出は、倉本聰氏。2013年冬の全国公演の一環として開催した。



■ココスマツアー 9月-3月 1916名

北九州スマートコミュニティ創造事業のスタートにともない増加した東田町観察希望者を対象としたツアーの企画運営を行った。東田の街の背景から現在の取り組みまで、正確な情報とサービスを提供する体制を行政・企業・市民のご協力のもとに確立、ツアーの運営を行った。累計で158団体/1916名の皆様にご参加いただいた。「市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業」協働事業申請。

■「ココスマツアー」出版

行政や参画企業のご協力のもと、北九州スマートコミュニティ創造事業のオフィシャルパンフレットを作成、発行した。エネルギー実証実験、東田の歴史、そして実証に関わる人々の想いをまとめた一冊。事業の視察に訪れた企業・行政視察の皆様をはじめ、多くの来訪者にご支持をいただいた。

■セグウェイ・ネイチャーツアー 試乗/体験306名 ツアー参加58名

■森先案内人養成講座、山田緑地に年3回実施

■北九州市環境首都検定「企業・団体部門混合受験優秀賞」受賞

■東田水環境映像祭開催

■北九州市環境ミュージアム「未来ホテルデー」開催

□片山右京チャレンジスクール

1月7/26 2月7/27 127名
片山右京氏がF1・登山・ロードバイクなどへの挑戦を続けることで感じたスピリットを、未来を担う子ども達に伝えていく「片山右京チャレンジスクール」を山田緑地に開設。子ども達がサーキットを模したコースを全力で走り回った。挑戦する事の大切さ、達成感などの体験を通して、自立心を育むことを目指した。当日は参加した子ども全員のタイムが上がり、あきらめず挑戦した結果を体感した。

■北九州市環境施設視察 4/11-13 20名

職員研修として、市内各所の環境関連施設、企業の視察を行った。アジア低炭素化センター、JICA九州、響灘ビオトープ、次世代エネルギーパーク、エコタウンセンター、ウォータープラザ、白鳥展示館、平尾台自然の郷、TOTO(株)小倉第一工場、新日鉄八幡製鉄所を訪問し、深めた理解をもとに業務内容の充実を計った。

■専門家によるセミナー実施 4回 80名

企業や北九州市役所から専門家を招き、職員を対象としたセミナーを実施。環境未来都市や北九州スマートコミュニティ創造事業、ダイナミックプライシング制度、節電対策制度(まちなか避暑地)、東田地区で実施される実証実験などについて理解を深めた。

